

令和4年度 長崎市立橘中学校 学力向上プラン

学校教育目標 「心豊かでたくましく自他を尊び自立する生徒の育成」
研究主題「自分や他者を認め、互いに協働する生徒の育成」
～教師力の向上による魅力ある学校づくりを目指して～

《家庭・地域との連携》

- 適切な課題量を設定し、一人一台端末のA Iドリル等も有効活用しながら、個別最適な家庭学習の習慣化を図る。
- 生活習慣の徹底を啓発する。

【取組指標】

- ★学校評価アンケートにおける「家庭学習の習慣が身に付いている(生徒)」→80%(R3 73%)
- 「基本的生活習慣が身に付いている(生徒)」→90%(R3 82%)

《目指す授業》

○長崎県授業改善メソッドを意識し、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて授業改善を図る。

- 「めあて(課題)」と「まとめ」が生徒に届く授業
- ねらいに即した「話す活動」「書く活動」を重視する授業
- 「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業

〔重点取組〕一人一台端末の有効活用

- 学習活動全般を通して、協働学習支援ツールとしてChromebookを有効活用し、自分や他者を認め、互いに協働しながら学び合う生徒を育成する。

【取組指標】

- ★生徒対象授業アンケートにおける「見通しを持った活動ができたか」「授業の中で話す・書く活動が設定されていたか」「学習のルールは守られていたか」→80%
- ★生徒対象授業アンケートにおける「授業でChromebookを活用したか」→100%

《教員の意識・指導力の向上》

- 年間2回、視点を絞った授業研究を全教員参加で行う。また、参観時には参観対象生徒を決め、生徒の反応から手立ての成果を見取る。

〔重点取組〕一人一台端末の有効活用に向けた知識習得・研修・実践

【取組指標】

- ★学校評価アンケートにおける職員の研修満足度→80%

《学力の基盤づくり》

- 「3分前入室 2分前着席 1分前黙想」全ての教科において学習規律を徹底し、学びの習慣化を目指す。
- 学力の土台となる基本的生活習慣の定着や自主学習の充実に向け、家庭との連携を図る。
- コミュニケーション活動を通して、言語活動の充実を図る。
- 全員が挙手できるような支持的風土の醸成を図る。

【取組指標】

- ★生徒対象授業アンケートにおける「321運動により落ち着いて授業をスタートできたか」「教室は挙手しやすい雰囲気があるか」→80%
- ★家庭学習の実施時間を、全国平均まで近づける。(全国学力調査生徒質問紙)

《本校生徒の抱える学力課題及び要因の考察(全国学力学習状況調査より)》

課題

- ①国語科の「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題」において全国平均を下回っている。
- ②数学科の「自然数を素数の積で表す問題」や、理科の「液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を選択し答える問題」など、それぞれの教科の知識・技能の領域において全国平均を下回っている。
- ③質問紙調査の「PC・タブレットなどのICT機器の活用」に関する全ての項目が全国平均を下回っている。

要因(仮説)

- ①得た知識を活用し、熟考した上でアウトプットする(人前で自分の考えを話したり書いたり)という学習活動が不足していた。
- ②学習習慣が身に付いておらず、復習が不十分になり、既習事項が十分に定着していない。また、定期的な単元テストや確認テストの実施が不十分で基礎的な知識が定着しておらず、思考力もついていない。数学科では昨年度の反省を踏まえ「数と式」領域を重点的に指導し、2年時と比べ全国比-13.2%から-3.5%と大きく改善してきている。
- ③学校での教育活動におけるICT機器の活用が不十分である。